

キャラクター名 香 大霍(シアン・ダアフォ)      プレイヤー名  

シンドローム	オルクス ハヌマーン	ワークス	UGNエージェントD	カヴァー	店長
	オプショナル		ノイマン	年齢	27
覚醒	命令	衝動	妄想	初期侵食率	31 %
出自	義理の両親	経験	記憶喪失	邂逅	同志

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	1	0	0			1	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	3	1	0			4	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉	1	
回避			知覚	1		意志			調達	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	2
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
『随意地』スウィーダ		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
潜伏者"ビハインドザマスク"	P 尽力	N 嫌気			
"炸" (チャードアン)	P 懐旧	N 無関心			
テレーズ・ブルム	P 尊敬	N 憐憫			
『リモデラー』	P 執着	N 脅威			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:		12	残り財産P:		12

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ファンアウト	1	4	セットアップ	至近	範囲(選択)			
効果: 対象を戦闘移動させる/ナリLv回								
戦術	4	6	セットアップ	視界	シーン(選択)			
効果: R間Xジャーゲイ+Lv個								
エンジェルヴォイス	1	4	Xジャー	視界	単体			
効果: 次のXジャーアクションのC値-1(下限6)&判定ダイス+Lv								
要の陣形	1	3	Xジャー		3	シンドローム		
効果: 対象を3人に変化/シナリオLv回								
領域の加護	1	2	Xジャー	視界	単体			
効果: 次のXジャーアクションの攻撃力+Lv*2								
妖精の手	2	4	オート	視界	単体			
効果: 出目ひとつを10に変更・重複不可/ナリLv回								
ブラックマーケット	1	-	常時					
効果: 常備化ポイント+Lv*10/基本侵蝕+2								
完全演技	1							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【失くした過去男】  
 5年前…のさらに半年前。テレーズ・ブルムの指示によりFHセル『ジエンド』に潜入。半年間『リモデラー』の計画を探っていたが、結果は芳しくなく『厄災』は起きてしまった。救えたのはほんの一握り。自分の無力さを嘆くしかなかった。  
 この5年間、FHから寝返ったていで『口裂き女(ミセス・ボマード)』やH03の助力を受け(時にはテレーズによる手回しもあったかも?)UGNの支部を回り、疑いの目を向けられ嫌悪の言葉を投げられながらも全て受け止め、淡々と任務をこなしてきた。  
 そもオレは任務ごとに本来の名、顔、あらゆるものを隠し動いていた。オレ自身を覚えているのは上層やテレーズ周辺の人間くらいだろう。…いや。そもそも"本"のオレとはなんなのか。ともあれ尚更オレを知っている人間はおらず、誰もがオレをFHから来た人間だと信じて疑わない。  
 それでいい。隠れ裏に最適だ。どんなに居心地が悪くとも、己の全てを口にするわけにはいかない。  
 敵の手強さと破壊力は間近で実感している。もう二度と、あんな事態を引き起こさせない。  
 オレが今此処に居る理由は——オレがUGNに所属し続ける理由は、人の平穩を理不尽に奪わせないためなのだから。  
 「…なんだ、何か文句でもあるのか」  
 「私の事は好きに呼べばいい。名などあってないようなものだ」  
 「何?必要な物がある?そういう事は早く言わんかのろま、どれが必要なんだそらさささと選べ何他にもあるだと何故一度に言わない二度手間になるだろうが全くそれで何が必要で(ry」  
 情報収集や交渉、潜入といった任務の方が得意。マフィアだったせいだろうか?  
 ついでに前線で戦う人間を援護する方が性に合っているらしい。ドンパチやるのは疲れたのか。  
 悪態つきながら面倒見るツンデレ。頼られるのは悪い気がしない。こいつ、チョロいぞ! ?記憶を失くして自分自身が曖昧なせいなのか?  
 一人称: 外面…私/素…オレ